

科目名		授業形態	担当教員名	
運動生理学演習		演習・講義	田中 靖人・小林 正明・喜田 直樹	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>理学療法において重要な人体の機能について演習を行う。呼吸・循環等の反応および筋収縮、姿勢制御機構等これらの反応を演習を通して確認する。</p> <p>また、本科目の進行における、演習方法、結果の処理、考察の仕方について習熟し、レポートを作成するまでを一貫して行う。</p>				
授業の到達目標				
<p>様々な生理的刺激に対し、ヒトがどのような反応を示すのかを演習によって明らかにし、その結果に対して、エビデンスに基づいた自分の考えをレポートとしてまとめることを目標とする。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	演習オリエンテーション 1			
2	演習オリエンテーション 2			
3	演習1 筋刺激時に起こる生体信号の抽出 1（田中）			
4	演習1 筋刺激時に起こる生体信号の抽出 2（田中）			
5	レポート作成のためのデータ処理・文献講読 1			
6	演習1 まとめ（田中）			
7	演習2 有酸素運動時の循環器系の反応 1（小林）			
8	演習2 有酸素運動時の循環器系の反応 2（小林）			
9	レポート作成のためのデータ処理・文献講読 2			
10	演習2 まとめ（小林）			
11	演習3 立位における重心動揺の理解 1（喜田）			
12	演習3 立位における重心動揺の理解 2（喜田）			
13	レポート作成のためのデータ処理・文献講読 3			
14	演習3 まとめ（喜田）			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	3分野のレポート得点を合算して評価する。提出が遅れた場合は減点することがある。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	レポート作成のために必要な文献については、担当教員から指示することがある。			
備考				
<p>演習1から3をグループでローテーションしていく。</p> <p>演習データが収集できないと、レポートが書けなくなることもあるので、欠席しないこと。</p>				